

ちょうおんざん じょう せん じ
超音山 浄泉寺

0877-49-0182

- 【宗派】 浄土宗
- 【本尊】 阿弥陀如来
- 【開基】 汲誉上人
- 【創建】 安土桃山時代
- 【歴史】



文明年間(1469～1487年室町時代)の頃、宇多津の地に法蓮社源譽慶公上人によって「浄願寺」という寺院が建立されました。その後天正16年(1588年)浄願寺第九世暁蓮社汲誉上人大中和尚の時に、高松藩主の生駒氏によって、浄願寺は高松の地に移転されました。その12年後の慶長5年(1600年「関ヶ原の戦い」のあった年)に旧跡の寺号を「浄泉寺」と改めました。よって暁蓮社汲誉上人を開山上人とします。(ちなみにこの汲誉上人は、丸亀市本島にある「来迎寺」の開山上人でもあります。)

江戸時代には、浄泉寺のほとんどの住職が寺子屋をしていたということもあり、明治初期にはこの寺子屋が小学校に変わりました。楠波小学校といい、着物に草履履きの生徒がここに通って、読み書きそろばんの勉強をしていました。やがて小学校は今の新町橋のあたりへ新築移転され、その後は、村役場として使われていたようです。

【お寺の主な建物】

本堂 詳しいことは不明ですが、高松に移った浄願寺が、江戸時代初めの明暦元年(1665年)に、高松藩祖松平頼重公の助力によって伽藍を再興した際、もとの木材を使って建立したのではないかといわれています。その後天保7年(1836年)に、第十七世達誉智覚上人の時に本堂が再建されてより何度か修理されています。また本尊は阿弥陀如来立像であり、脇土として左右に観音・勢至両菩薩像、また左右の脇段には、高祖善導大師・宗祖法然上人(円光大師)の両大師像が祀られています。

閻魔堂 「十王堂」ともいい、大きな**“閻魔大王像”**を含む十王像や脱衣婆(三途の川で亡者の衣を奪う老婆)の像が祀られています。この「十王」は、人が亡くなってから定期的に行われる裁判の裁判官であるとされます。(四十九日までの七人と、百ヶ日・一周忌・三回忌の三人で十人)これらの仏像の作者は、大坂堺筋の大仏師京屋勘右衛門とされ、天保十二年(1841)に完成したといわれています。

また十王堂の西隣には、地藏菩薩を祀った「本地堂」があります。これは、閻魔大王の本地(本体)は地藏菩薩であるという説からきています。



【主な年中行事】

閻魔さん法要	8月16日	午前10時に閻魔堂を開き、11時頃に参詣者とともに百万遍の数珠繰りを行い、午後1時から法要・法話を行います。また閻魔堂の壁に「 地獄・極楽の掛図 」(六道絵)を掛けて参拝者にご覧いただいています。
十夜施餓鬼会	11月の最終日曜日	十夜法要(お十夜)は、本尊阿弥陀仏への報恩感謝を目的とした、浄土宗独特のお念仏法要で、これに「お施餓鬼」を加えて、亡き方々の塔婆回向も行います。